

2026年3月24日

各位

会社名 株式会社カネミツ

代表者名 代表取締役社長 金光俊明
(コード番号 7208 東証スタンダード)

問合せ先 取締役常務執行役員 金光秀治
(電話 078-919-2347)

第10次中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、第10次中期経営計画を決議しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 第10次中期経営計画について

現中期経営計画が2026年3月期に最終期となることから、新たに第10次中期経営計画を策定いたしました。

2. 添付資料

第10次中期経営計画の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以上

第10次中期経営計画

2026年3月24日

株式会社カネミツ



1.はじめに

2.これまでの振り返り

3.ありたい姿2035

4.第10次中期経営計画の概要

1. はじめに



■ トップメッセージ

当社コア技術である回転成形技術を駆使した“ロボット部品”事業を量産化に漕ぎつけることができました。また基幹事業の一つとなった“トランスミッション(T/M)部品”事業の増産に向けた再整備に着手いたします。“プーリ”事業を含めた既存事業について“何をどこでどのように生産”するかの検討を実行段階に移行していきます。

一方、ひとつづくりにも焦点をあて、社員の能力向上、働き方の多様化、そして社員の幸福を求めつつ、成長を維持できる基盤整備を進めていきたいと思えます。

これら第10次中期経営計画の主要課題への取組みには、山川新社長をトップとした新しい体制、新しい仕組み、新しい思考で挑む決断をいたしました。私自身は会長として、新社長を支え、スムーズな体制移管を図りながら、自分の役割を明確にした上で、ステークホルダーの皆様と一緒に事業を推進していきたいと思えます。



代表取締役社長
金光俊明

1. はじめに — 代表取締役社長の変更について



2026年3月24日開催の取締役会において、以下のとおり代表取締役社長の異動を決議いたしました。

氏名	新役職	現役職	就任予定日
山川清日	代表取締役 社長	取締役	2026年6月下旬
金光俊明 * 1	代表取締役 会長	代表取締役 社長	2026年6月下旬

* 1 2026年6月下旬開催予定の株主総会での取締役ご承認を前提としています。

■ 新任代表取締役社長の略歴

氏名 山川 清日（やまかわ さやか）

生年月日 1979年12月5日（満46歳）

略歴

2007年4月 株式会社カネミツ入社

2014年5月 海外事業統括室長

2016年4月 執行役員

2019年1月 KANEMITSU PULLEY CO., LTD. 代表取締役社長（現任）

2021年5月 佛山金光汽车零部件有限公司 董事

2021年6月 取締役

2024年6月 取締役常務執行役員（現任）

2026年3月 FKC董事長（現任）

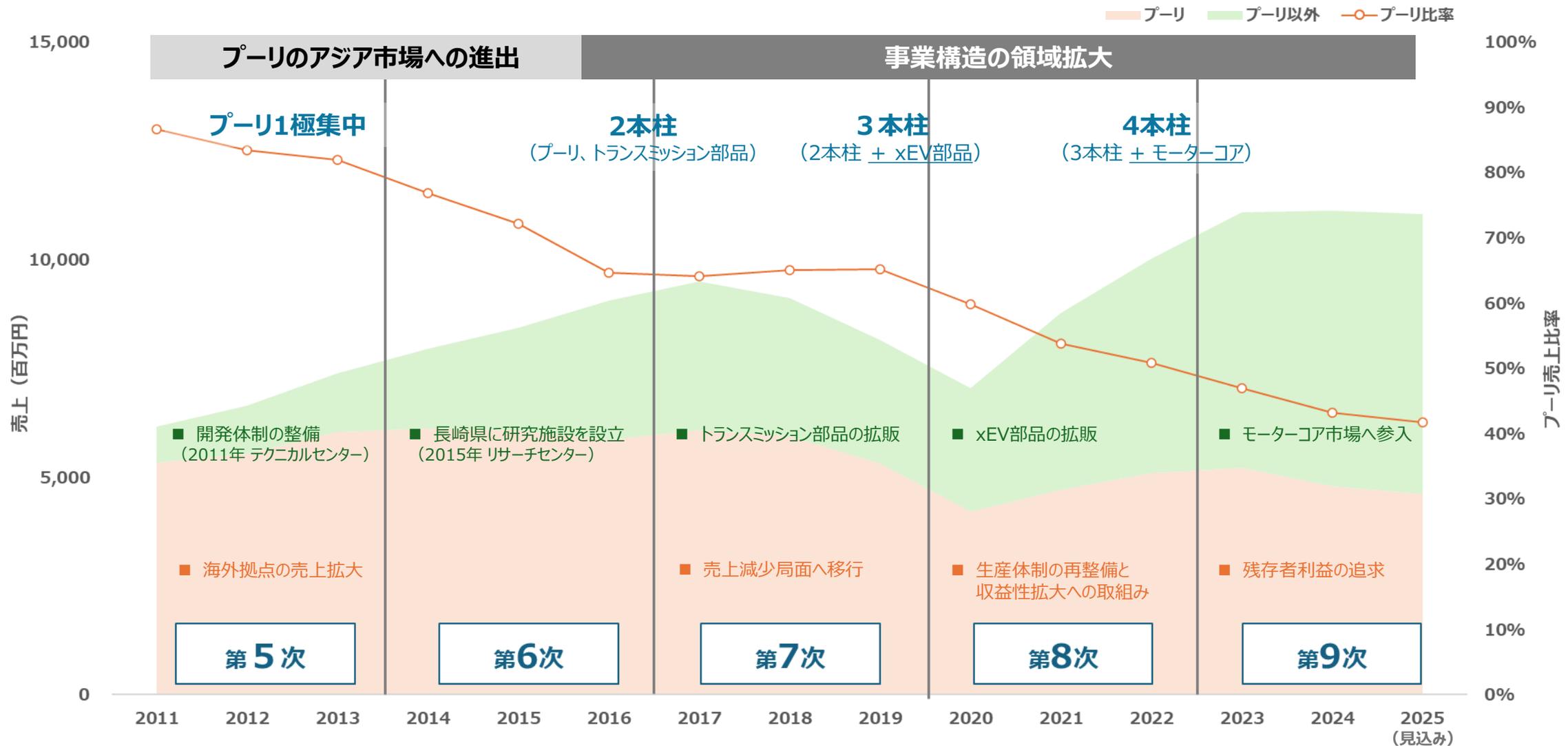


2. これまでの振り返り

2. これまでの振り返り — 売上高の推移



プーリ依存からの脱却を目指し事業構造の領域拡大を進めてきました。

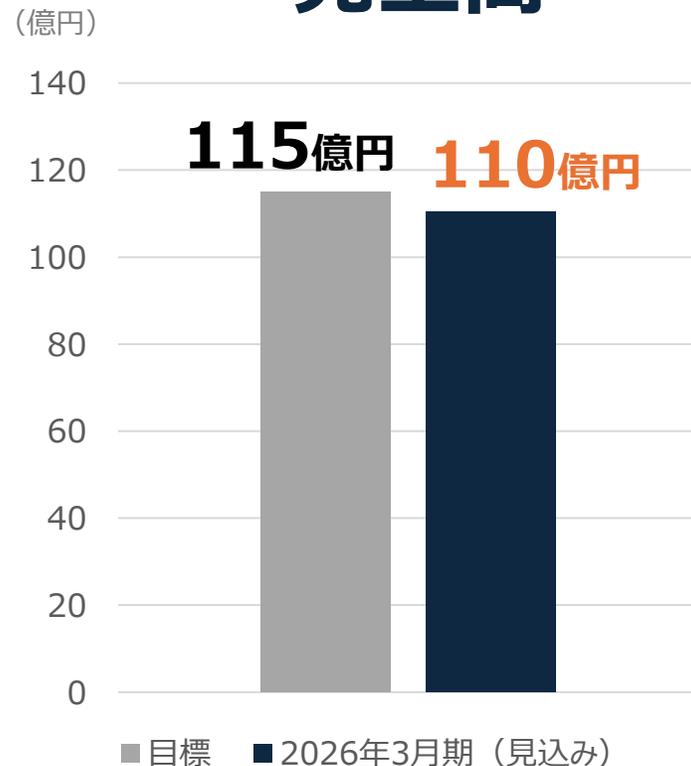




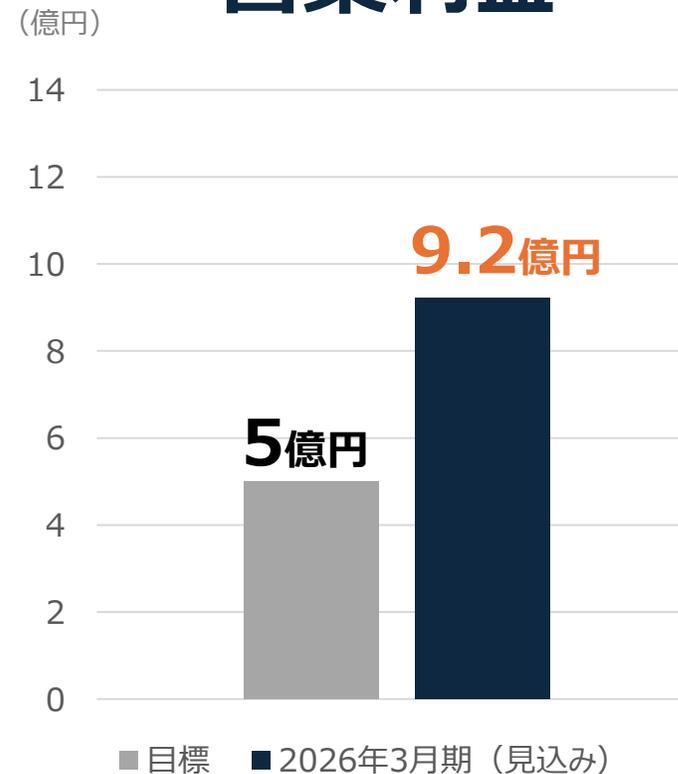
営業利益、ROEは目標達成

- タイおよび中国の日系自動車販売の低迷により、売上高は目標に対し若干未達となりました。
- 生産ラインの統廃合や生産性向上等の原価低減により、利益は目標を達成しました。

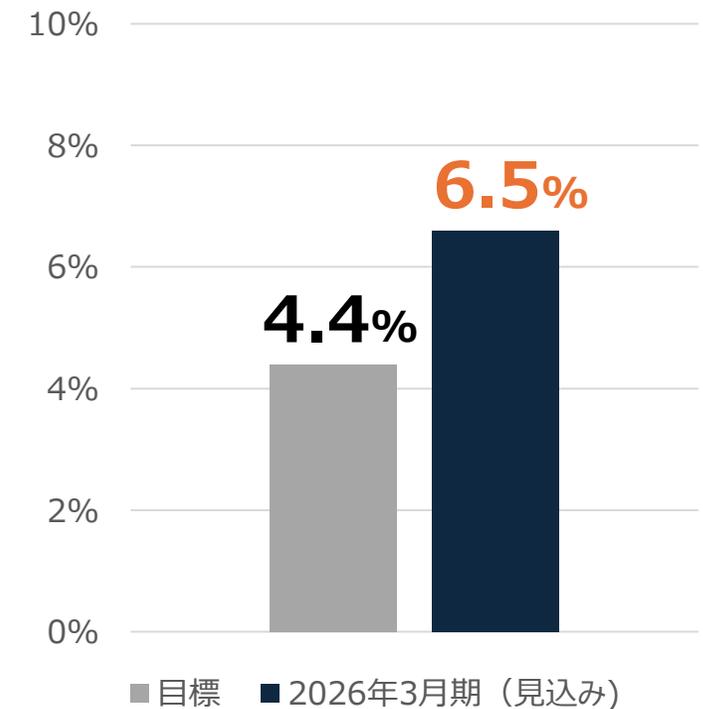
売上高



営業利益



ROE

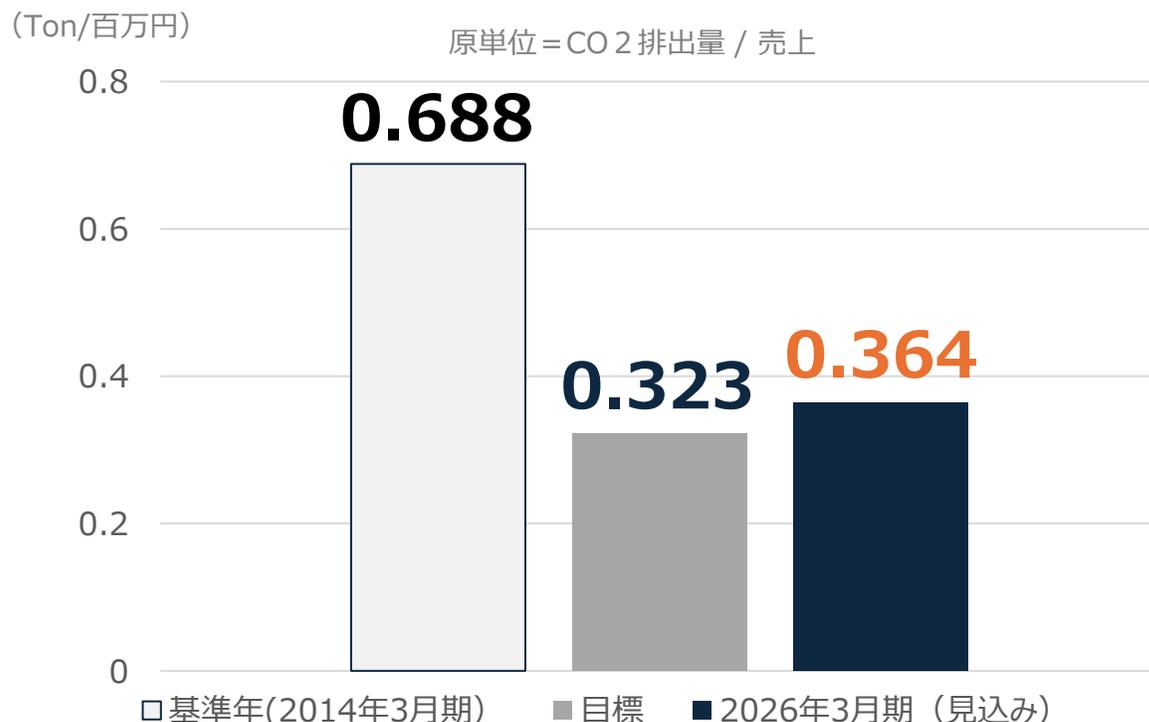




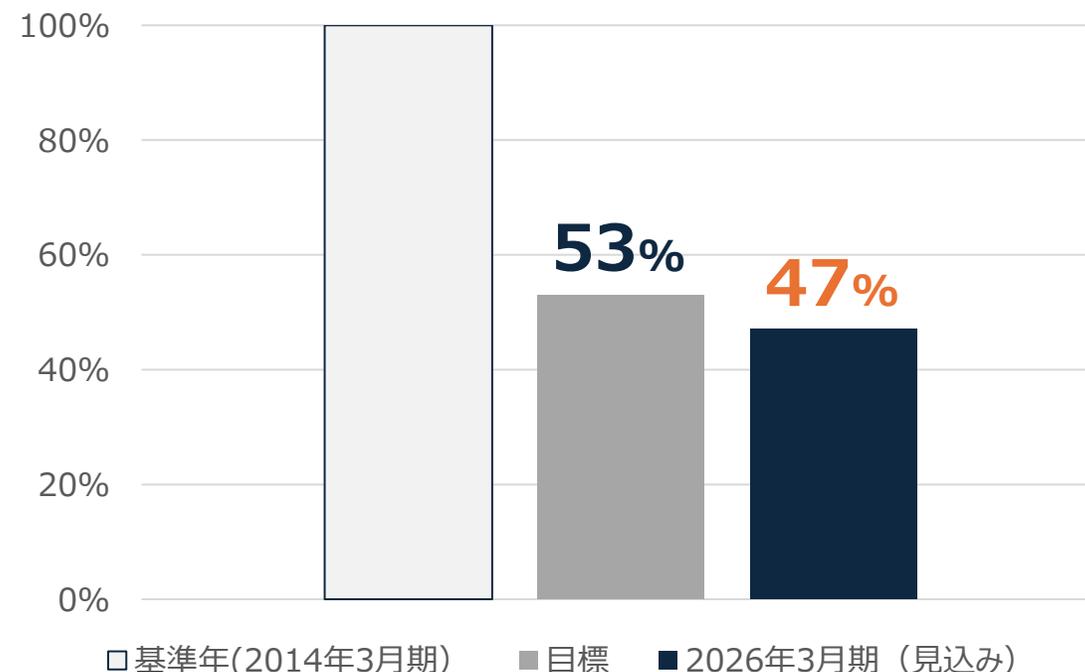
Scope1 Scope2のCO2排出量原単位削減率47%（見込み） ※基準年2014年3月比

- 高効率設備/太陽光発電の導入等で基準年比でほぼ半減となりましたが、目標に対しては未達となりました。
- エネルギー管理委員会を中心に新たな目標を設定し、引き続きカーボンニュートラルを推進していきます。

CO2排出量原単位



CO2排出量原単位削減率



2. これまでの振り返り — 最重要課題



プーリの売上高比率は2012年3月期から半減しましたが、未来を支える事業が不透明となっていました。

未来を支える事業を明確にするために、「**もの**だけでなく**ひと**にも焦点をあてる戦略」を推進していきます。

ものづくり



プーリに続く未来を支える事業の確立

ひとづくり



有能な人材の確保とAIの活用

3. 10年後のありたい姿

3. 10年後のありたい姿



自動車の電動化により、主力商品であるプーリの需要が減衰していくなか、経営理念をブレない軸とした新事業開拓を進めていきます。

経営理念

カネミツは技術を尊び技術でOnly-Oneを目指す
カネミツはOnly-One技術で安全と環境に貢献する

ありたい姿2035

スローガン 「新しいカネミツを創造していこう！」

事業ポートフォリオ

ロボット用部品を成長事業の要と位置づけ、プーリ・トランスミッション部品・xEV部品・モーターコアにロボットを加えた5本柱を中心に、持続的な競争力の確保と成長がなされている。

ものづくり

「カネミツならこうやります！」の積み重ねにより、お客様から「カネミツならできるかも？」を連想して戴ける金属塑性加工技術のリーディングカンパニーとして、社会価値を創出している。

ひとづくり

学びと挑戦を通し、自ら考え行動する多様なキャリア志向の社員が、それぞれの働き甲斐を実感できている。

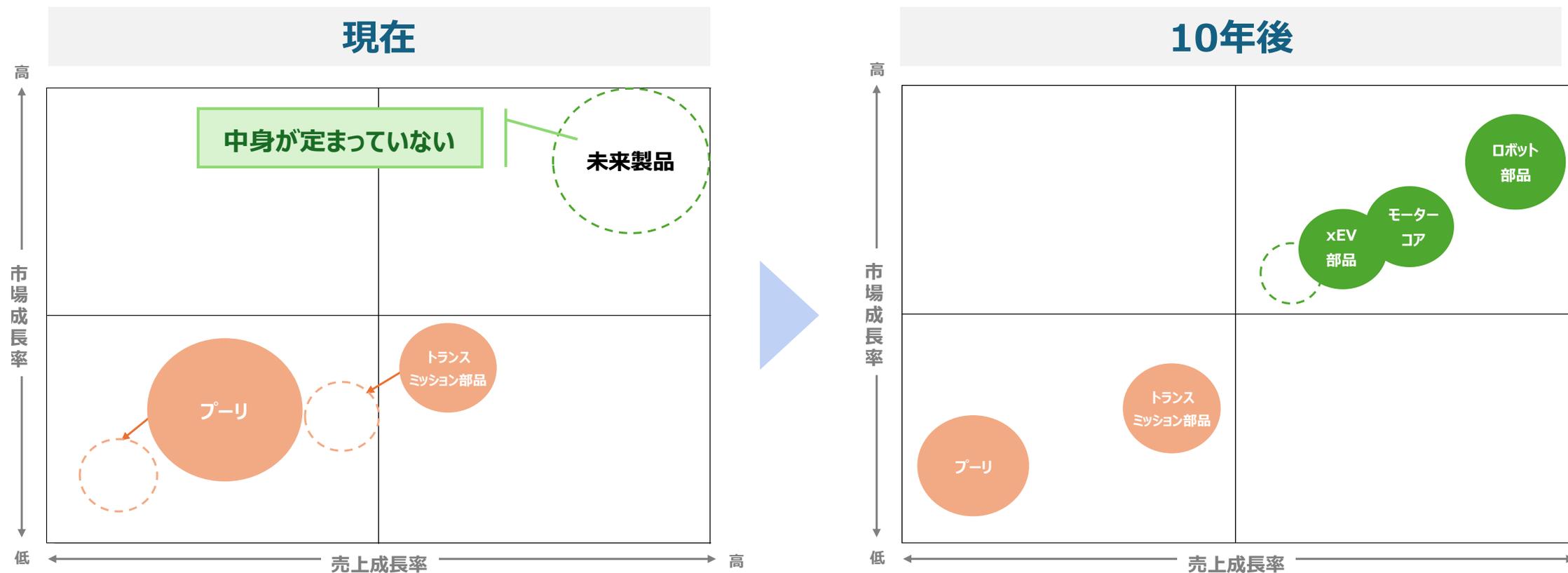
3. 10年後のありたい姿 — 事業ポートフォリオ



成長マーケットへの挑戦——ICE車(※)中心の事業からの脱却

(※) ICE(Internal Combustion Engine) = 内燃機関車

- 自社技術の水平展開により、ロボット用部品をプーリに続く未来を支える事業と位置づけグローバルに事業を展開していきます。
- 自動車マーケットではHEVやBEVに使用される部品事業を引き続き拡大していきます。
- 医療等の成長が期待されるマーケットへの参入を目指します。
- ICE車マーケットの売上依存度を、現在の75%から10年後50%を目標に掲げて経営リスクの低減をはかります。





「5本柱」の確立と成長

当社は、以下の5つの事業領域を主力事業の柱に据え、持続的な競争力の確保と成長を図ります。

- 1 プーリ事業**

自動車分野で高いシェアを維持しつつ、グローバル最適生産等により事業効率を高め、残存者利益を追求し、経営の安定基盤として持続させていきます。
- 2 トランスミッション事業**

新規顧客開拓と海外展開により、プーリに次ぐ経営の安定基盤として持続させていきます。
- 3 xEV用部品事業**

製品群の拡充、新規顧客開拓、M&Aや協業による事業拡大を目指します。
- 4 モーターコア事業**

M&Aや新規顧客開拓による事業拡大を目指します。
- 5 ロボット用部品事業**

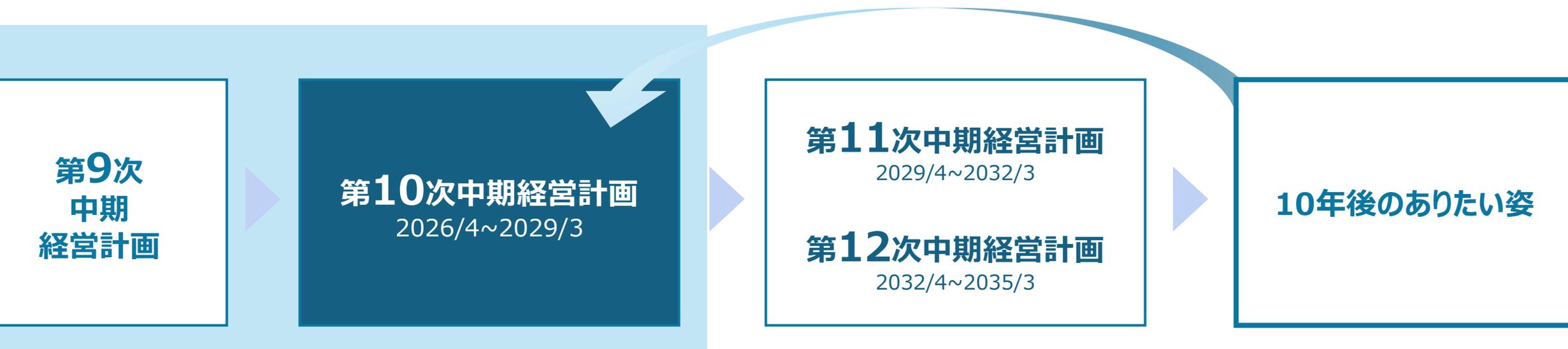
自社独自技術によるネットシェイプを追求し、プーリに続く未来を支える事業と位置づけてグローバルに事業展開します。

4. 第10次中期経営計画の概要

4. 第10次中期経営計画の概要



10年後のありたい姿の実現へ向け、**ものづくり**と**ひとづくり**の両面から課題を明確にして諸施策を推進していきます。



第9次

- 主力製品は減衰していくが未来を支える事業や製品が定まっていない。
- 人材不足

第10次

- ロボット用部品を中心に5本柱の事業戦略を推進する。
- キャッシュアロケーションの見直し
- 人材の確保
 - ・ 教育（リスキリング・アップスキリング）
 - ・ AI活用による業務工数補完
- 社員エンゲージメント向上のための働き方、評価・処遇制度の再構築



■ ものづくり

1 複数事業の柱による売上構成比の最適化

自社技術の水平展開により、ロボット部品を中心に、自動車マーケットではHEVやBEV用部品の事業拡大、そして医療等の成長が期待されるマーケットへの参入により持続的成長を目指し、ICE用部品事業以外の売上比率35%以上を目指します。（現行25%）

2 核となる勝てる技術（ネットシェイプ）の玉成

- コンピューターシミュレーションによるモデル開発（KAVS）の活用拡大、グローバルでの開発の効率化そして外部機関との協業により加工技術のコンピタンスを確立します。
- 知的財産戦略を強化します。

4 製品化に必要な周辺技術の強化

熱処理、鍛造等の製品化に必要な周辺技術をM&Aやアライアンスも含めて強化します。

3 お客様目線での価値提供力の向上

ロボット部品を中心に、搭載される機器の機能を把握してお客様目線での価値提供力を向上させます。

5 スマート工場化推進

AIや自動化によりスマート工場化を目指します。



■ ひとづくり

1 必要な人材の確保とAIの活用

- 事業戦略と人事戦略を連動させて必要な人材を定義します。
- グループ全体の人々の能力の統合管理を進めます。
- リスキングやアップスキングにより人々の能力を高めます。
- AIの活用により業務工数低減をはかります。

2 教育制度の見直し

- リスキング、アップスキング、階層別・テーマ別教育、ジョブローテーション等の既存制度を活用して、学びと挑戦が根付く教育制度を構築します。

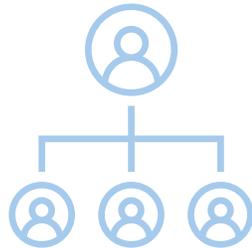
3 働き方の多様化への適応

- エンゲージメントの向上を目的に評価・処遇制度を再構築します。
- ITリテラシー教育とAIの有効活用による定型業務の効率化を推進し、創造的業務を中心とした働き方へシフトしていきます。



■ 全社共通で取り組む課題

新事業開拓組織の整備



- 社内にエキスパート集団を醸成します。

情報セキュリティの継続的な強化

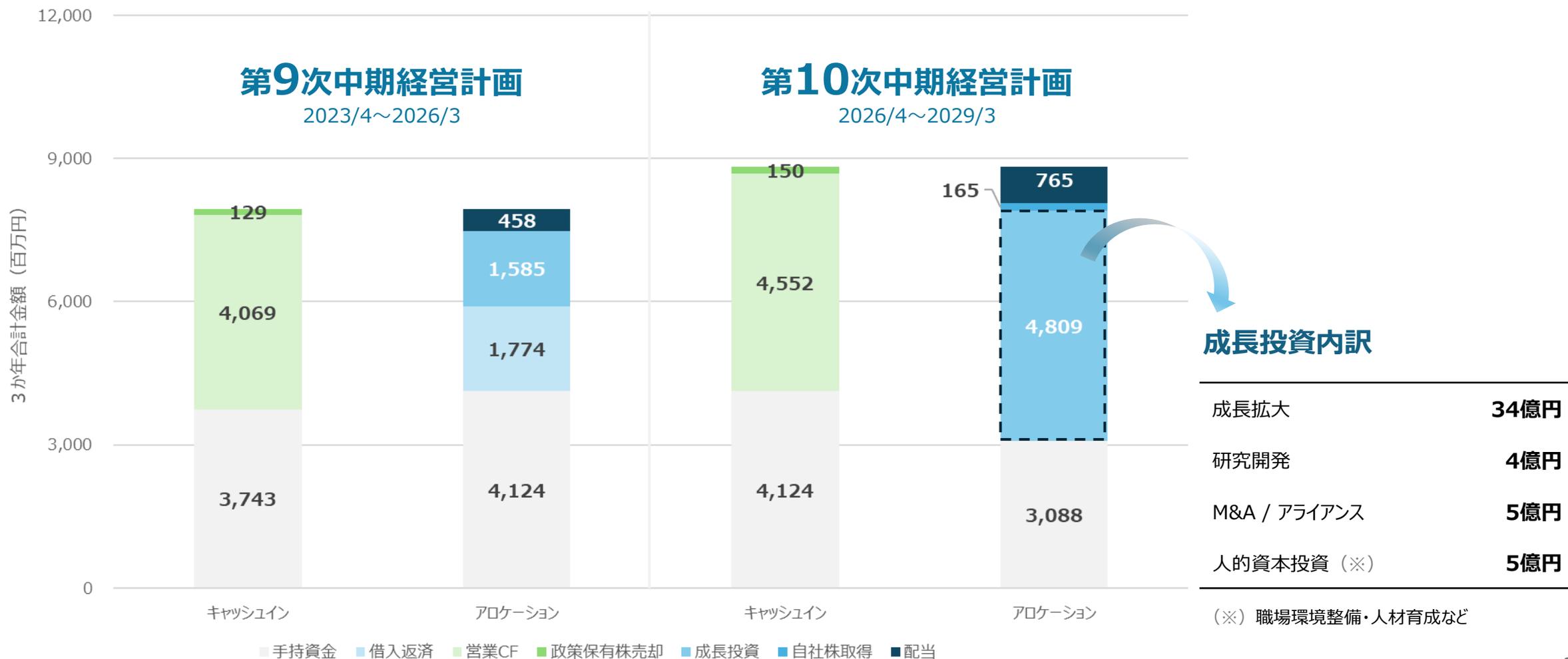


- 被害の極小化と復旧の最短化を目指します。
- 教育を継続的に強化します。

4. 第10次中期経営計画の概要 — キャッシュアロケーション



営業CFを拡大させるとともに、成長事業への投資・株主還元・保有Cashの適切なバランスを図ります。

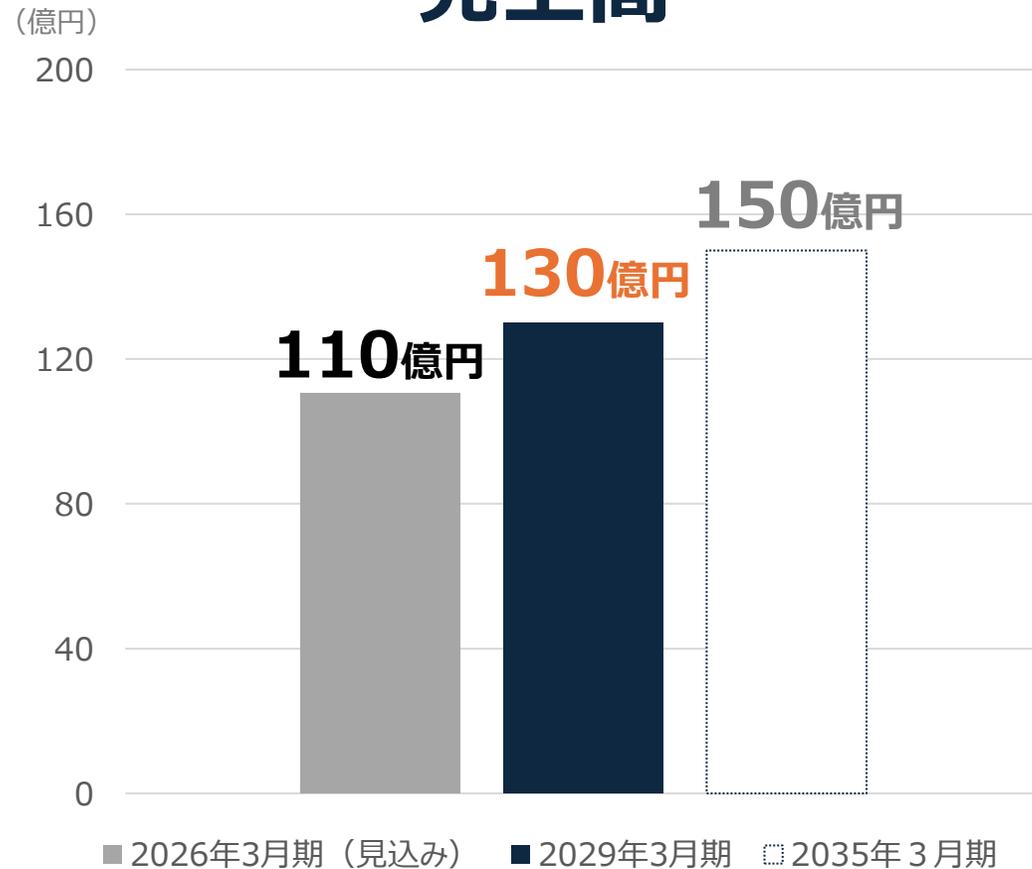


4. 第10次中期経営計画の概要 — 財務目標

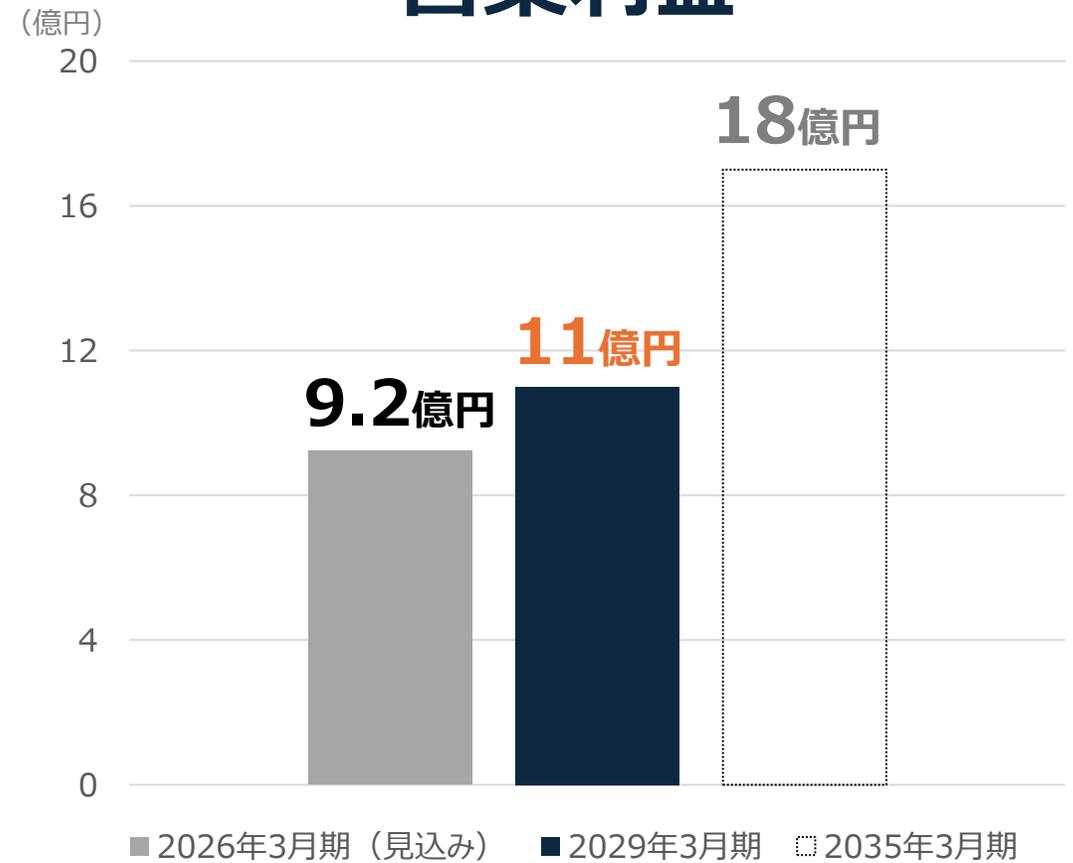


2029年3月期 売上高 130億円、営業利益 11億円

売上高



営業利益

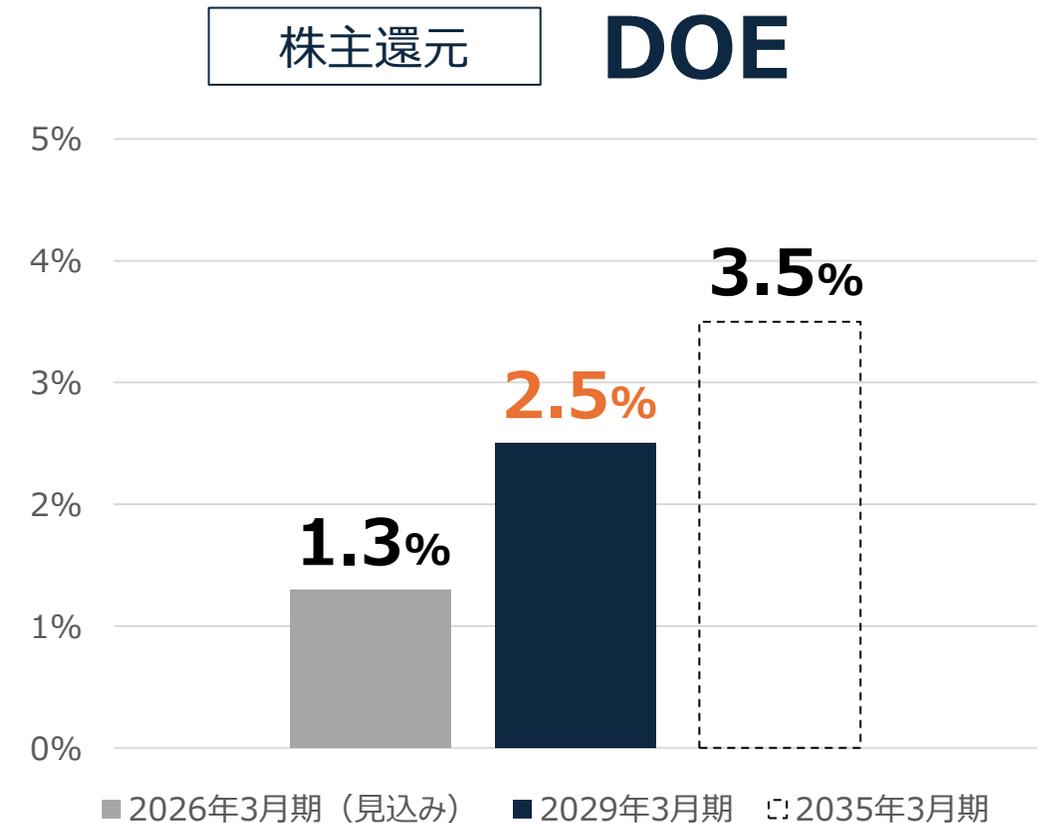
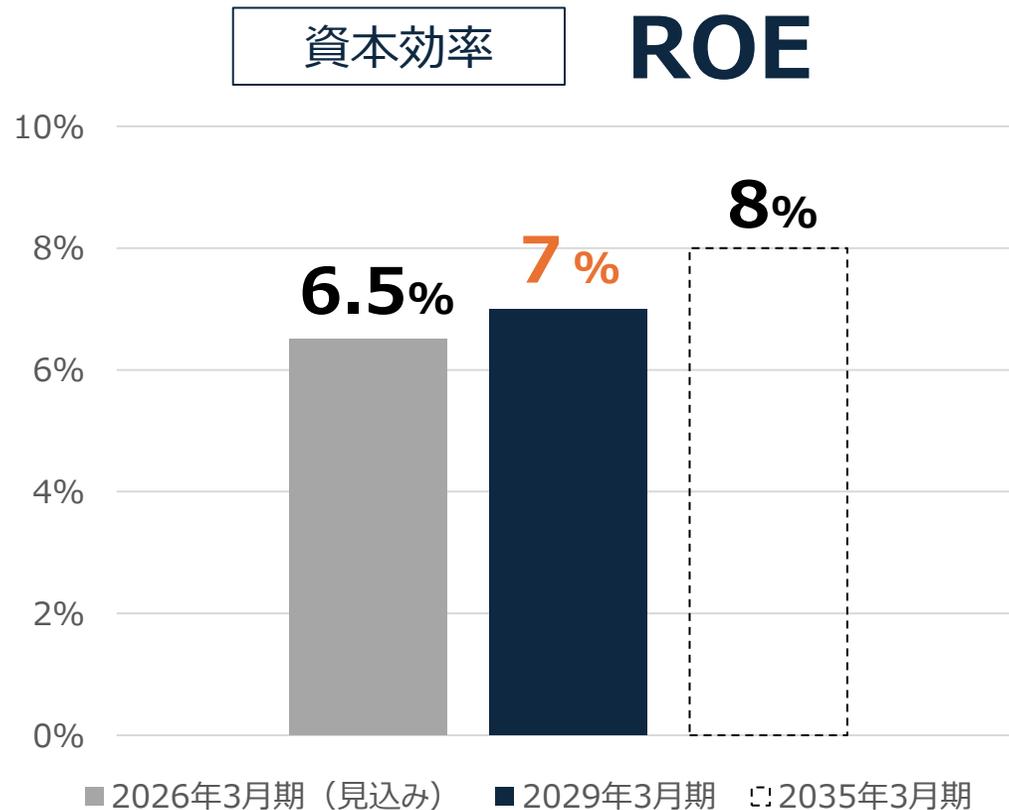


4. 第10次中期経営計画の概要 — 財務目標



2029年3月期 ROE 7%、DOE 2.5%(自己資本見込み136億円)

- 安定した配当を目指し、DOEを配当指標とします。
- 主要施策を推進してPBR向上を目指します。



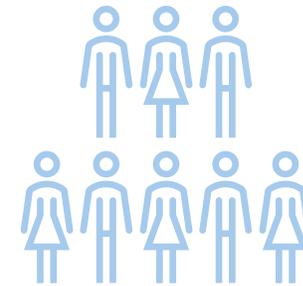


カーボンニュートラル



Scope1,Scope2 CO2排出量原単位の
10%低減を目指します。(2026年3月期比)

ダイバーシティ



- 有給休暇取得率 **80%以上**
- 男性社員の育児休暇取得率 **50%以上**



本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現時点での入手可能な情報に基づいた予想であり、将来の業績を保証するものではなくリスクや不確実性が含まれています。

そのため、経営環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることをご留意ください。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としていません。